

## 平成7年度（1995年）事業計画

当初協議会もこの2月で設立5周年を迎え、1995年度は6年目の活動にも入りまします。設立当初と現在を比較しますと、政治、経済環境は大きく変化し、国際情勢にも激変しました。協会の取組環境も変化し、メセナに関する社会一般の認知度も設立時と比較すればはるかに高くなると云えます。メセナを担当する企業が増加し、地方には地元企業による文化支援が活発化するなど、企業メセナが着目する方向にありまします。しかし、全般的にみれば、企業内の一部の人達が、その必要性を認識し、行動している程度であり、まだ、企業メセナはその第一歩が始まった段階と云えます。メセナに関する社会の認知度や理解が徐々に高まれば、その重要性が認識され、メセナに関する社会的期待も変化するものと見られます。協会の責務がますます重くなってくることは当然です。このように社会・企業の変動を見極めながら事業計画を策定し、その責務を果たしていくことが肝要と考えます。1995年度の事業計画は、以下の中期構想に基づくと致します。

### I. 中期構想

- (1) 国際的にみても、メセナは国、民間中心主義から地方の役割重視に移行しつつあります。従って、企業メセナの普及拡大を図るため、「地方のメセナ 日本と世界」をテーマに企業メセナと地方メセナの新しい取り組みを進めることにいたします。

#### 理由

- ① 地域の芸術文化振興は地元企業メセナを核とする自治体・企業の協力が望ましい『メセナ白書1994』によれば、自治体、企業双方がパートナーシップを重視している。また、メセナ大賞でも地方独自の活動が受賞している。
- ② 日本各地にメセナ組織が広がりつつある。「企業メセナ群馬」「佐賀県企業メセナ協議会」「山口メセナ倶楽部」などが組織され、「企業メセナ群馬」は社団法人となっている。
- ③ 国際メセナ会議の成果を踏まえて地方メセナの問題を「世界／日本」という国際的視野から取り上げること重要である。
- ④ 地方自治体もハコづくり時代を通過して、ソフトウェア、ヒューマンウェアの充実を重視するようになり、企業との『協働』に意欲的である。
- ⑤ 企業にとっても、自治体とのメセナ・タイアップは巨額の支出を必要とせず、しかも一定の効果が期待できる。

#### 具体策

- ① 経営者と地方行政のトップとの会合、討論の場をつくる
- ② 地方メセナ組織のネットワーク作りをすすめる、情報交換、セミナーの開催等を行う
- ③ 地方メセナ組織の設立計画には積極的に支援する
- ④ 地方自治体の文化行政視察の第3回メセナ海外視察団を欧州に派遣する
- ⑤ 当協議会が仲立ちして世界／日本の自治体の直接的な文化交流（国際会議の開催も含めて）を促進する

- (2) 企業内におけるメセナへの理解を一層図るため、「メセナの輪の拡大」をテーマに、企業経営者並びに従業員に対する啓発活動を強化してまいります。

#### 理由

- ① メセナや社会貢献活動は経営者の意識に左右されると考えられるが、これまで経営者に積極的にPRしていなかった。
- ② 各企業のメセナ担当者の中に若い人が増えてきている。また、ボランティア活動に参加したり、社会貢献やメセナに関心をもつ人も多くなりつつある。しかし、これらの人達に情報交換や研究の場がなく、メセナを理解する層をさらに広げるまでに至っていない。

#### 具体策

- ① 経団連の社会貢献部、社会生産性本部、産業能率大学などに働き掛け、経営者を対象とするセミナー等に啓発の機会をもつようにする
- ② メセナに関心のある企業内の個人を対象に「メセナメンバーズクラブ（仮称）」を設置する。年に2～3回の会合を開き、メセナに関する研究や情報交換を行う。このメンバーを核として企業内にメセナ理解者の輪を広げ、裾野の拡大を図る。メンバーに対しては、協議会主催のセミナー等の優待、メセナ誌の割引購入などの特典を与える。

#### 2.1.4 アート・マネジメント講座

『メセナ白書1993』によれば、芸術団体の中に「企業に助成要請をしたいが、要請方法がわからない」という意見がありました。特定公益増進法人になり、企業側の支援はしやすくなりますが、芸術団体側も企業に対して効果的なプレゼンテーションの方法を身につける必要があります。企業のメセナ担当者を講師にプレゼンテーション方法を研究する講座で、94年度に引き続き実施します。

#### 2.1.5 事業共催

他の団体の活動で企業メセナの啓発・普及に役立つものがあれば共催で実施してまいります。

### 2.2 情報収集・仲介事業

#### 2.2.1 メセナ誌

現行の32頁から40頁に増頁し内容充実を図ります。また、助成選考委員会で認定した芸術文化活動はメセナ誌を通じて公表し、支援を広く募ります。

#### 2.2.2 ニュースレター

会員企業に対する機関誌です。94年度を踏襲してまいります。

### 2.3 調査・研究事業

#### 2.3.1 メセナ白書

『メセナ白書1994』は各企業のメセナ活動の実施状況に加え、地方自治体を対象に調査を行い地方自治体と企業メセナの関係を明らかにしましたが、95年版では「世界のメセナ」を特集してまいります。なお、発行は9月上旬の予定です。

### 2.4 顕彰事業

#### 2.4.1 メセナ大賞

91年度からスタートしたメセナ大賞は4年目を機に審査委員や入賞件数、賞の名称等の再検討を行い、より多くの企業・団体が応募できるよう改善を図りましたが、95年度は前年度を踏襲してまいります。

### 2.5 国際交流事業

#### 2.5.1 国際メセナ会議'95

1995年5月22～24日に当協議会設立5周年を記念して「国際メセナ会議」を開催いたします。

### 2.6 助成事業

企業と協力して、芸術文化活動への助成を行ってまいります。そのための助成選考委員会は年6回開催し、芸術団体・個人から申請された活動を審査し助成認定活動を選考します。この助成認定活動への支援が免税の対象となります。

### 2.7 中期構想の具体化

前述の中期構想を具体化するため、1995年度は

- ① 地方メセナ組織の会議を下期に開催し、ネットワーク作りに着手します。
- ② 地方のメセナ組織結成の動きを支援します。
- ③ 経営者セミナーにメセナをテーマとする時間の新設を働き掛けます。
- ④ メセナメンバーズクラブ（仮称）の具体的検討に入ります

## II. 1995年度事業計画並びに収支予算案

1995年度の事業は 5月22～24日に開催いたします国際メセナ会議を最重要事業として以下の計画で取り組んでまいります。

### 1. 1995年度収入計画

#### 1.1 会費収入

1995年 3月 9日現在、正会員は173社464口、準会員42社46口となっております。1995年度の予算編成上の会員獲得目標を一応、正会員24口合計 487口、準会員 4口合計50口とし、会費収入合計額12,765万円を見込みました。

#### 1.2 事業収入

メセナ誌の売上収入 130万円、メセナ誌広告収入 180万円、セミナー等の参加費収入 50万円、メセナ白書売上収入 150万円と見込んで事業費収入計 510万円としました。

#### 1.3 雑収入

受取利息などで、120万円を見込んでおります。

#### 1.4 助成金収入

当協議会を經由して支援する助成金を20,524万円と見込みました。

#### 1.5 記念事業収入

当協議会設立5周年記念国際メセナ会議の開催にあたり、参加費、助成金、協賛金の収入を 6,500万円と見込みました。

以上1995年度単年度の収入合計は404,190万円となります。

### 2. 事業計画

#### 2.1 啓発・普及事業

##### 2.1.1 会員懇話会

これまでと同様に通常総会のあと、会員の親睦と情報交換の場として年 2回開催します。

##### 2.1.2 定例会

会員企業とアーティストや文化団体との相互理解の場とする定例会は94年度と同様に年 4回程度企画してまいります。

##### 2.1.3 企業メセナセミナー

会員企業のメセナ担当者を対象に、企業メセナの実務を修得することを目的に行っている企業メセナセミナーは94年度を基本的に踏襲してまいります。

###### ①企業メセナセミナー入門編

異動等により、初めてメセナ部門の担当になった方々を対象にメセナ活動の基本的な考え方を多方面から理解していただきます。

###### ②ケーススタディ・シリーズ

会員企業のメセナ活動を相互に紹介するケーススタディ。メセナ担当者がかかえる諸問題について情報交換を行います。

###### ③アートを学ぶ

1995年度は芸術の各分野についてより深く理解する場とし、コンテンポラリーアート・ネットワークと共催で演劇、音楽の2分野についての研修時間を増やして実施します。